

農林水産省農村振興局長賞

まぜ
馬瀬地方自然公園・住民憲章推進協議会（岐阜県下呂市）

質の高い馬瀬の自然を遺して、個性ある地域を目指す



下呂市馬瀬地域(旧馬瀬村)は、地域の95%が森林で占められる典型的な過疎山村です。村を流れる清流・馬瀬川は鮎釣りのメッカで、清流の保全や花壇づくり、河川の清掃など村を挙げて美化活動を進めてきました。

平成年代に入り、新たに温泉開発などが推進され、観光客は釣りの4万人から30万人に急増しました。しかし、今後は人と自然が共生した地域づくりが重要だと考え、平成8年には「馬瀬川エコリバーシステムによる清流文化創造の村づくり構想」を策定し、「山村景



紅葉と寒桜の競演

観」や「自然環境」の保全を重点とする6つのプロジェクト事業を展開してきました。

また、平成9年から5年間、景観保全等が特徴のフランスの地方自然公園制度を学ぶため、住民による「フランス山村調査隊」を派遣してきました。そして平成16年2月に、町村合併後の馬瀬地域の独自性ある地域づくりを進めるため、全国でも初めての取り組みである「馬瀬地方自然公園」(馬瀬全域を対象)を設立しました。平成17年8月に住民が主体となって発足した住民憲章推進協議会は、馬瀬地方自然公園の理念である「住民憲章」の啓発普及、地方公園づくりプランの作成、それに基づく事業の計画、実施に住民の知恵と声を反映するための活動を続けています。

近年では、当協議会の長年の活動成果が実り、馬瀬川の鮎が全国の清流の鮎の味比べコンテストでグランプリを受賞、馬瀬地域がNPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟を承認されるなど、今後の地域づくりを元気づけてくれる動きが続きました。さらに、これらの成果を活かし、地域に経済的発展が出来る仕組みを作るため、「馬瀬地方自然公園づくり委員会」を組織し、地域ぐるみで新たな「馬瀬地方自然公園づくり5ヵ年計画」の策定作業を行っています。本計画では、地域経済活性化の要素をより強く取り入れるなど、馬瀬地方自然公園づくりの目的の明確化、



清流馬瀬川は子ども達の遊び場

計画内容の高度化、住民や団体が幅広く参加できる仕組みづくりなどを重視しています。

現在、馬瀬地域では少子高齢化や農林業を取り巻く厳しい状況等があります。今後の目指す方向としては、山村景観や森林、農地、河川など豊かな自然資源の保全を強化しつつ、それらの資源の持つ魅力に一層の磨きをかけ、新たな特産品開発、観光振興、都市との交流など地域に人の賑わい、経済循環が出来る仕組みづくりに取り組む必要があります。

特に、今後の活動は新たに策定される「馬瀬地方公園づくり計画」において、地域づくりの目的、課題を明確にし、それを地域住民や各種組織が共有し、自立した地域づくりが出来る態勢づくりに重点をおいて進めたいと考えています。

■講評

村を流れる清流・馬瀬川、落ち着いた佇まいの山里の風景など豊富な自然資源の中で、観光客急増による地域の見つめ直しから始まった地域住民の活動が、合併の際の地域のアイデンティティにまでなり、今日まで継続的かつ体系的な活動がなされています。これら活動を通じて美しい地域をつくり守ってきていることが評価されました。



旧街道沿いの家の落ち着いた佇まい